

令和3年度 教育事業（普及啓発事業・特色あるプログラム事業）

第12回 チャレンジカヌーツーリング

1 事業概要

日帰り事業としてショート編を5回実施し、3kmのツーリングへの挑戦を通して、やり抜く力の育成を図った。参加者は、肱川の自然に触れながら、カヌー体験を楽しんでいた。ショート編3回は、雷雲の接近の恐れやダム放流のため中止、ロング編（10km）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中止となった。

令和3年度 国立大洲青少年交流の家 教育事業

第12回 チャレンジカヌーツーリング

体験の感動をおこせ

出会い・挑戦・感動の大洲
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

各回 20名

【ショート編】約3km
（大洲市菅田父橋～柚木）

①7/10(土) ②7/11(日)
③7/17(土) ④7/18(日)
⑤7/24(土) ⑥7/25(日)
⑦7/31(土) ⑧8/1(日)

日帰り
【参加費】旅費・保険代等 980円

国立大洲青少年交流の家ホームページからお申込みください。

対象 小学5・6年生の親子、中学生、高校生、一般
★小学生の参加は保護者同伴、中学生、高校生の参加は保護者の同意が必要です。

50名

【ロング編】約10km
（大洲市菅田宇津橋～柚木）

予備日9/18(土)～19(日)
1泊2日

【参加費】旅費・保険代等
小学5・6年生 2,520円
中学生以上 2,550円

★【ロング編】の申し込みは、『ショート編』の受講が条件です。ただし、過去の『ショート編』もしくは『ロング編』に参加し、受講した方は、申し込みが可能です。

主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 〒795-8011 愛媛県大洲市花田1088 TEL:089204-5115
国立大洲青少年交流の家 メールアドレス:ca@kaiho-nippon.go.jp 〒795-8011 愛媛県大洲市花田1088 TEL:089204-5115
大洲市・大洲市教育委員会 大洲市カヌー協会

2 事業の目的（ねらい）

初めて体験するカヌーツーリングを通して、困難なことにも積極的に挑戦する姿勢を養い、やり抜く力の育成を図る。また、肱川の自然のすばらしさにも触れることで、カヌー体験活動の普及を行う。

3 企画のポイント

国立大洲青少年交流の家のミッション「仲間と共にやり抜く力を伸ばす青少年の育成」のもと活動内容を企画し、やり抜く力を伸ばすのに必要な要素として、「協力」・「コミュニケーション」・「挑戦」・「安全」・「実践」・「見つめる」の6つに着目することとした。さらに、今年度はショート編を日帰りとして8回企画し、より大洲でのカヌー体験活動を普及できるようにした。また、ロング編のコースをショート編より上流の場所からスタートすることに変更し、困難な10kmのツーリングとした。

- 4 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
- 5 共催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会
- 6 後援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会
- 7 期 日

【ショート編】

- 第1回：7月10日（土）＊雷雲の接近の恐れがあるため中止
- 第2回：7月11日（日）
- 第3回：7月17日（土）＊ダム放流のため中止
- 第4回：7月18日（日）＊ダム放流のため中止
- 第5回：7月24日（土）
- 第6回：7月25日（日）
- 第7回：7月31日（土）
- 第8回：8月1日（日）

【ロング編】

- 9月11日（土）～12日（日）＊「まん延防止等重点措置」の期間となったため、予備日に延期
- 予備日：9月18日（土）～19日（日）＊「感染対策期」の期間となったため中止

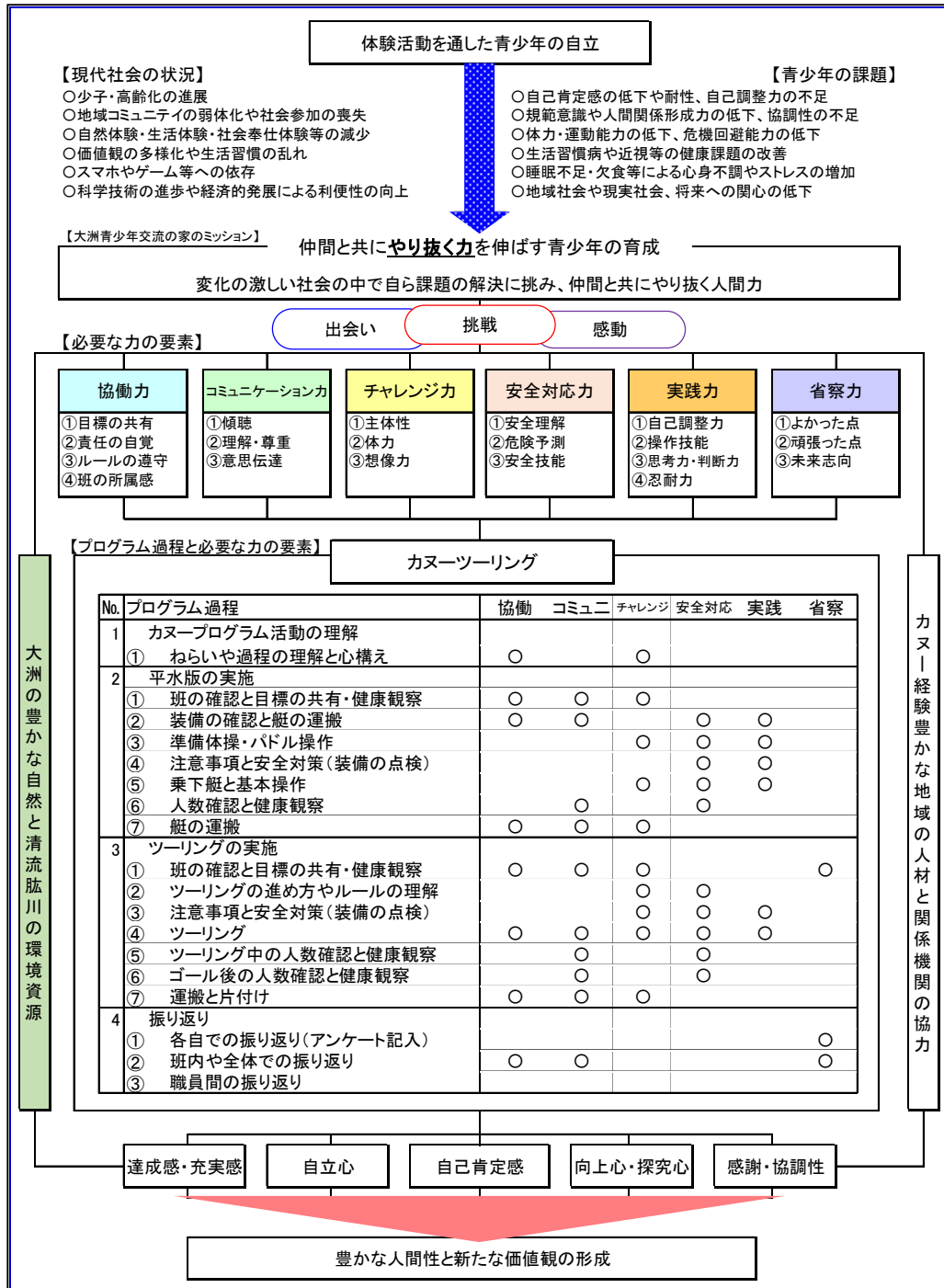
8 場 所

- 【ショート編】 大洲市菅田町父橋～大洲市柚木 約3km

【ロング編】 大洲市菅田町宇津橋～大洲市柚木 約10km

9 対象 小学5・6年生親子、中学生、高校生、一般

10 事業構成表 やり抜く力の育成に焦点を当てた事業を展開できるように、事業構成表を作成した。



11 応募者数（参加者数）

【ショート編】 各回定員 20名

第1回：応募者数 135名 *中止

第2回：応募者数 120名（参加者数 21名）

第3回：応募者数 105名 *中止

第4回：応募者数 138名 *中止

第5回：応募者数 94名（参加者数 20名）

第6回：応募者数 157名（参加者数 20名）

第7回：応募者数 102名（参加者数 20名）

第8回：応募者数 147名（参加者数 20名）

【ロング編】 定員 50名

応募者数 71名 *中止

12 参加費

【ショート編】980円 【ロング編】小学5・6年生2,520円 中学生以上2,550円

13 講師

大塚製薬工場 小早川裕之氏（熱中症予防対策講義）・大洲市カヌー協会会員・国立大洲青少年交流の家職員

14 日程

【ショート編】	【ロング編】*中止	
9:30 開会式・移動	13:30 開会式・移動	6:30 起床・清掃
10:00 カヌー体験	14:10 カヌー体験・移動	7:00 朝食・退所点検・移動
11:45 昼食・休憩・移動	17:00 夕食・入浴	9:20 カヌーツーリング
13:00 カヌーツーリング	19:00 熱中症予防対策講義	12:30 昼食
15:15 閉会式・移動	20:00 自由時間	13:00 閉会式・移動
16:00 更衣・解散	22:30 就寝	14:00 更衣・解散

* ロング編中止のため、熱中症予防対策講義は、9月28日（火）に職員研修として実施

15 活動内容

(1) 開会式と導入（目標設定・アイスブレイク等）

各回において、やり抜く力を伸ばすのに必要な要素として考えた6つの視点について説明した。さらに、この6つの視点について活動後にアンケートをとることを伝え、やり抜く力の育成に関して明確な目的意識をもって取り組めるようにした。

開会式後には、カヌーツーリングの班に分かれて自己紹介を行い、今回のチャレンジカヌーツーリングでがんばること（個人の目標）も発表し、それを班のメンバーで共有し、お互いが声をかけながら助け合い、それぞれの目標を達成できるようにした。

【やり抜く力を伸ばすのに必要な力の要素】	
協力	ルールを守って、バディや班のメンバーと協力する。
コミュニケーション	バディや班のメンバーをはげましたり、いいところやがんばっているところを伝えたりする。
挑戦	「カヌーを上手にこぎたい」という気持ちをもって、積極的に取り組む。
安全	「自分の命は自分で守る」ということを意識して、安全に気を付けて取り組む。
実践	カヌーに乗れる（カヌーを操作できる）ようになる。
見つめる	チャレンジカヌーツーリングを通して、最後までがんばれたかどうか振り返る。



(2) カヌー体験 講師：国立大洲青少年交流の家職員

バスで艇庫に移動し、親子で協力しながらカヌーを運んだ。一人一艇のカヌーを使用するので、艇庫から河原までを2往復する親子が大半であり、小学生や女性の保護者には大変だったようだ。その後、河原でパドルの使い方の練習を行った。対面にして練習することで、きちんとできているかどうかバディで確認するようにした。また、班のメンバーにも目を向けるように声をかけ、少しずつ班の仲間意識を高められるようにした。リバーサインを確認し、正しくライフジャケットを着けた後、基本的な操作に慣れるように流れが穏やかな場所で1時間余り、カヌー体験を行った。

(3) カヌーツーリング 講師：大洲市カヌー協会会員

父橋に移動し、班で声をかけ合ってゴールを目指すことを伝え、カヌー協会の方にサポートしていただきながら、3kmのツーリングを開始した。参加者は、流れに負けないように力強いパドリングで瀬（流れが激しい所）を抜けたり、水辺の自然や景観について会話をしたりして、ツーリングを楽しんでいた。



(4) 閉会式

ツーリング後、アンケートの記入、班での振り返りを行った。各班での振り返りでは、個人の目標が達成できたかどうか、一人ずつ発表する時間を設けた。参加者同士、お互いの発表に真剣に耳を傾け、「がんばったこと」を全員で共有できる時間となった。また、カヌー協会の方にも各班の振り返りに加わっていただき、参加者の発表を聞いていただいたり、カヌーの魅力を話していただいたりした。



16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

【事業満足度】（大人 53名 子供 48名）

*満足：93.0% *やや満足：6.0% *やや不満：1.0% *不満：0%

- カヌーを運ぶのは大変でしたが、片付けまでやりきることを親子で学ぶことができました。
- 初めてのカヌーだったけれど、意外にうまくできて、すごく楽しかったです。
- とても疲れましたが、達成感があります。

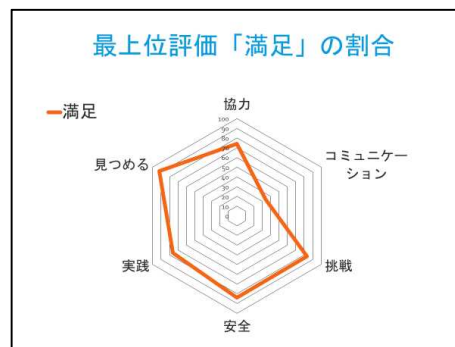
17 事業の成果

ショート編8回、いずれの回においても定員を大きく上回る申込だった。日帰り事業としたことや、午前中にカヌーの基本的な操作を体験し、午後からはツーリングに挑戦するというプログラム構成が参加しやすかったのではないかとと思われる。また、ロング編への申込は例年に比べて多かった。ショート編の回数を増やしたことでロング編の受講資格がある人が増えたこと、ツーリングコースをショート編よりもさらに上流に変更しツーリングのイメージをしやすくしたことが、申込人数の増加につながったのではないかとと思われる。

参加者の安全・安心を確保して体験活動を実施し、肱川の自然のすばらしさやカヌー体験活動の普及を行うことができた。

18 事業の課題

やり抜く力の構成要素に着目したアンケート結果（ショート編5回分 最上位評価「満足」の割合のレーダーチャート）では、コミュニケーションに関する項目が他と比べて低かった。コロナ禍での実施のため、ソーシャルディスタンスの確保や家族間の交流をあえて充実させなかったことがその要因の一部と考えられるが、コミュニケーションの力を育てる事業展開等について検討する必要がある。また、やり抜く力の構成要素や事業展開等について、専門家や有識者等にも指導していただきながら、より効果的な企画となるようにしていきたい。様々な団体や関係機関との協力・連携を図りながら、チャレンジカヌーツーリング事業の発展を目指し、カヌーを通じた体験活動の普及・啓発に努めていきたい。



(担当：主任企画指導専門職 村中 昭広)